末盛　慶　小平　英志　鈴木　佳代　著

『ひとり親世帯の家族生活と仕事 ―シングルマザーの生活戦略と中高生の現在・未来』



（晃洋書房、2026 年 3 月、190 頁）

末盛　慶

本書はひとり親の家族生活と仕事生活の関連、そしてそれが子どもたちにどのような影響をもたらすのかを中部地方に在住する母子世帯の無作為抽出によるデータを用いた計量的分析によって明らかにしたものである。本書の特徴は①親子のカップルデータであること、②構造とエージェンシーや再生産理論等の社会学と発達理論等の心理学双方の視点に基づいていることである。以下、各章の概要を紹介する。

序章では本書の問題意識、研究課題、意義と限界などについて述べている。

第 1 章ではひとり親に関する歴史的検討、国際比較、現代社会におけるひとり親世帯の位置づけに関する社会学的な考察－日本社会の重層的圧力－について述べている。

第 2 章では本書における理論的枠組みと先行研究の概観を行っている。具体的には構造とエージェンシー、世代間再生産、青年期と中年期の発達などについて述べている。

第 3 章ではひとり親等に関する全国調査と本調査の結果を比較した。本データは全国調査に比べ中学・高校卒のシングルマザーの割合がやや高めであることが示された。

第 4 章では本調査の子どもデータの記述統計が示した。ひとり親世帯はふたり親世帯に比べて所得が低く、食料や衣料が買えないことがある世帯が 3 ～ 4 割にのぼった一方、子ども自身は経済的な苦しさを母親ほど認識していない傾向が示された。

第 5 章では、ひとり親世帯のシングルマザーのワーク・ファミリー・コンフリクトの規定要因の分析を行った。分析の結果、仕事が過重であるほど、職場に長時間労働の組織文化があるほど、貧困状態であるほどシングルマザーのワーク・ファミリー・コンフリクトが有意に高まることが示された。

第 6 章ではシングルマザーの生活戦略に関する分析を行った。生活戦略とは人々は置かれた状況に対してとる行為とその過程を意味している。分析の結果、ふたり親の母親よりシングルマザーの方が家族生活と仕事生活の調整に関わる生活戦略をより多く行っていること、低学歴なシングルマザーであるほど親や友人に頼れないことが示された。

第 7 章では、ひとり親世帯の子どもの学歴期待について分析した。その結果、ひとり親世帯では母親が子どもに期待する学歴、中高生が希望する学歴が、ふたり親世帯とくらべて低い傾向がみられた。

第 8 章では、中高生が自分の家族に持つ印象である家族イメージと家族形成意識（結婚願望など）との関連について検討した。分析の結果、ひとり親の中学生で家族イメージがネガティブになりやすいこと、家庭の経済状況は家族イメージをネガティブにしうること、家族イメージと家族形成意識と関連することが明らかにされた。

第 9 章では家族イメージに影響する家庭の要因を検討した。分析の結果、ひとり親のみ母親のワーク・ファミリー・コンフリクトと家族イメージが負の相関関係が、ひとり親のみ母親との会話頻度と家族イメージが正の相関関係がみられた。

以上から政策的な提言として①労働時間規制などを含めた日本の労働環境の改善、②児

童扶養手当の増額や最低賃金の上昇等を通じた所得補償の必要性などを指摘している。

日本の母子世帯の相対的貧困率は国際的にみてまだ高い。本書を通して、母子世帯の状況について考えたり、周囲の人々と議論を交わす１つの機会となることを願っている。

（すえもり　けい　日本福祉大学社会福祉学部教授）